

聖書: 第一列王記8章22～40節

説教: 聞いて、お赦してください

はじめに

イスラエルがエジプトから脱出したとき、モーセは、神からいただいた十の戒めを記した二枚の石の板を主の契約の箱に納めました。それからおよそ五百年経ったとき、ソロモンの父であるダビデは、この契約の箱を置くために主の宮を建てるべきか主に伺ったことがありました。これに対し神は、ダビデの信仰を高く評価しながらもこのように語るのです。「**あなたがその宮を建ててはならない。あなたの腰から出るあなたの子どもが、わたしの名のために宮を建てる。**」(19節)

「あなたの腰から出るあなたの子ども」とはだれなのか。だれの目にもソロモンのことだと見えました。神から知恵を与えられていたソロモンは慎重でした。自分では判断しません。主に祈り求めます。そうしていたら隣の国の王であったヒラムから力強い支援の申し出があり、これこそ主の御心であると確信して宮の建設に着手しました。

このような経過をたどり、ソロモンは七年の時間をかけ、また莫大な資金と労力を費やして主の宮を建てました。その完成をお祝いする式が盛大に執り行われます。まず羊や牛がいけにえとしてささげられ、それから祭司とレビとたちの手によって主の契約の箱が宮の中の至聖所と呼ばれるところに運び入れられました。祭司たちが宮の中から出て来たとき、突然に雲がわき起り主の宮に満ちていきます。それを見たときソロモンは思わず叫びました。「主は暗やみの中に住む。」それからソロモンが祭壇の前に立ち、主に祈り始めます祈りは53節まで続いていくのですが、きょうはその前半部分を見て参ります。

1 罪のことを祈るソロモン

ソロモンはイスラエルの最高責任者である王という立場にあります。こんな場合、普通であればどんなことを語るでしょうか。たとえば、東京オリンピックの会場と新国立競技場は来年の末に完成予定だそうです。完成すれば、総理大臣が前に立つ

ておそらくこんな式辞を述べるでしょう。「この施設がオリンピック成功の足がかりとなり、我が国のスポーツ界の発展、国際交流の促進、ひいては世界の平和のために用いられることを願うものであります。」

では、ソロモンは何を祈ったのか。例えば31節を見てみましょう。「ある人が隣人に罪を犯したら。」ここだけではない、ずっと罪の話が繰り返されていきます。完成記念式の中でどうして罪の話をするのか。世の常識では考えられないでしょう。それがどのようなことだったのか、具体的に見ていきます。

2 四つの罪

1) のろいの誓いを立てたとき(出エジプト記22章11節)

ソロモンは全部で七つの項目にわたって祈っているのですが、きょうは前半の四つのことを取り上げます。一つ目は、31節以降にあります。全部は読みませんがこの中の、「ある人が隣人に罪を犯し、**のろいの誓いを立てさせられることになって**」とはどういうことか、わかりにくいので解説しておきます。これは出エジプト記22章11節と関係があると言われています。こんな話です。自分の家畜を隣の人にお願ひして見張りをしてもらったのに、その家畜がいなくなってしまった、でも目撃者がいない。そんな場合、どのような手続きをすべきか。こう書いてある。「**隣人の財産に絶対に手をかけなかったという主への誓いが、双方の間に、なければならない。その持ち主がこれを受け入れるなら、隣人は償いをする必要はない。**」

家畜を預かった人が「自分は絶対に盗んでいない」と誓って、相手が「そうか」と納得したらそれ以上は追求しない。そのようにしなさいということです。そうすると何が問題になるか。すぐに想像できます。本当は自分が盗んだのに、証拠さえ見つからなければ、「盗んでない」と言ってしまえば無罪になる。盗んだ者の勝ちになります。みづかりさえしなければ、なにをやってもいい、というこ

とになる。誰が考えてもこんなこと赦されて言い訳がありません。

それでソロモンが祈るのです。もし嘘の誓いをする者がいるならば神がきちんとさばいてください。このことはまた後で取り上げます。

2) 敵に打ち負かされたとき

二つ目の祈りは33節です。「**あなたの民イスラエルが、あなたに罪を犯したために敵に打ち負かされたとき。**」

現代では戦争の勝ち負けは、兵器や作戦、補給、兵士の技能、おそらくそのようなもので決められるでしょう。神に罪を犯したことが原因で敵に勝てなかったと言え、笑われるだけでしょう。

3) 雨が降らなかったとき

三つ目の祈りもそうです。35節。「**彼らがあなたに罪を犯したため、天が閉ざされて雨が降らない場合。**」

今科学者は、地球の温暖化によって異常気象が世界各地でますます増えて行くだろうと予測しています。人間の活動の結果排出された二酸化炭素が原因だと言われているが、人間の罪の結果だと言う人は非常にまれです。温暖化を防ぐために二酸化炭素の排出量を抑えようという話はあるけれど、神に対して罪の赦しを願うということは聞きません。

4) ききん、病気が起こったとき

四つ目の祈りは37節です。「**もし、この地に、ききんが起こり、疫病や立ち枯れや、黒穂病、いなごやあぶら虫が発生した場合、また、敵がこの地の町々を攻め込んだ場合、どんなわざわい、どんな病気の場合にも。**」

三千年前、農薬や肥料はない。なぜ病気になるのか、どうすれば病気を直すことができるのか、そのような科学的知識もなかった時代なのだから、とにかく困ったことが起きればなんでも神頼みだったのだろう。ソロモンの祈りはそんな未開人の祈りに過ぎない。そんな判断を下されるでしょう。

3 罪人の祈りに耳を傾ける神

1) ひとりの罪が大きなわざわいをもたらす

クリスチャンは何でも困ったことがあれば神にお願いする甘えん坊のような者だと言う方もいます。ご自分の口で、「私は自分に甘いのです」と言われる方はいるかもしれません。でも、ここに来られる方々全員が生きることについて真剣に向き合っていると私は知っています。もし、少しくらいごまかしても人に迷惑さえかけなければ何をしてもかまわない、と思っている人がいるなら、そもそも教会に来ないでしょう。困ったことが起きたら、だれかに押しつけてしまえばいいのだと思う人はなおさら来ない。

とは言っても、私たちは聖人君子ではありませんから、心のどこかでささやく声が聞こえるのも事実です。隣の人から預かった家畜を一頭くらい盗んでもわからないではないか。もし何か言われたら、「私は知りません」と言ってしらを切れればいいじゃないか。そんなふうに誘惑してくる声が聞こえます。でももう一方からは、「そんなことをしてはいけない」、という声も聞こえてきて、その間で二つに引き裂かれている状態だと言ってもいいでしょう。

イスラエルもそうでした。イスラエルがエジプトで苦しんでいたとき、モーセが遣わされ、救出されました。その経験を通して、神は御真実な方であり、苦しむ者とともにおられることを知りました。しかしやがて時間が経つと、そんなことは忘れ、神への不満が募っていきました。エジプトで生活していた方がまだ良かったと言う者も現れました。

人間というものはそんなものなのです。罪を犯してはならないと何度も言われながら、それでも罪の誘惑に打ち勝つことが難しい。そのことをソロモンは知っています。それで今宮の前で祈ります。32節です。「**あなたご自身が天でこれを聞き、わたしのしもべたちにさばきを行って、悪者にはその生き方への報いとして、その頭上に悪を下し、正しい者にはその正しさにしたがって義を報いてください。**」

民たちはこれを聞いています。嘘の証言をした者に神は怒りのさばきを下すという警告ですから、

改めて神は恐ろしいと思ったでしょう。でも、いっぽう励ましもありました。

例を挙げましょう。滅多にないことですが、財布を拾ったとしましょう。中身を見たら一万円札が何枚も入っています。拾うところは誰にも見られていない。黙っていようかと一瞬迷いながら、それでも交番に届ける。でも後から思い出すわけです。あのまま黙っていたら全部のお金を使えたのに。ちくちくと心がうずく。そんなとき、ソロモンの祈りを思い出します。「正しい者にはその正しさにしたがって義を報いてください。」たとえ罪の誘惑の声が後から聞こえてきて、あとき黙っていればと思いつくことがあったとしても、別にそれでがっかりする必要がない。神は正しい者に必ずその正しさにしたがって義を報いてくださる。

2)ひとりの罪の告白が大きな幸いとなる

こんなことを言うと、そんな馬鹿正直なことをしていたら損をするだけだと言う方もいます。しかし、聖書は何を言っているか。もしあなたが罪を犯せば、先祖から譲り受けた土地から追い出されていく。天が閉ざされ雨が降らなくなる。もしあなたが罪を犯すなら、この地にききんが起これり、人々は災いと病気で苦しむことになる。罪の影響力は私たちの想像をはるかに超えて悲惨な結果をもたらしていく。それが一貫して聖書が語っていることです。

そうするとどうことになるか。もしあなたがたのひとりでも神に立ち帰り、罪を告白し祈るならば、今度はその影響力がどれほど大きなものになるかということです。想像をはるかに超えた幸いを世に及ぼすことになる。

3)宮で祈る

それでは、いったいどこで祈るのでしょうか。ソロモンは何度も繰り返しています。「この宮で。」では、私たちはイスラエルの神殿に行き行って祈らなければならないのか。いいえ。もうそんな必要はありません。ソロモンが建てた宮は、天にあるものの写しと影でした。本物がどこかにあるのです。だれですか。イエス・キリストです。この方が本物の神殿であるとご自分から明らかにされました。

口で言うだけではない。三日目に死人の中からよみがえられて、そのことを証しされました。だから私たちは、主イエス・キリストの前に出て祈ります。私は罪を犯しました。その祈りと願いを神は聞かれないのですか。無視するのですか。耳がないというのですか。いいえ。38節。「この宮に向かって両手を差し伸べて祈るとき、どのような祈り、願いも、あなたご自身が、あなたの御住まいの所で聞いて、赦し、またかなえてください。」

主がこのソロモンの祈りを聞かれたという証拠に、このように聖書に記されています。

私たちの祈りを聞かれ、罪を赦してくださる主に感謝します。